



リリース 9.3.1.1

Oracle® Data Integrator Adapter for Hyperion®
Planning スタート・ガイド

ORACLE | Hyperion

目次

練習用サンプル・ファイル	2
環境の設定	7
サンプル・アプリケーションのロード	14
サンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリング	18
サンプル・ターゲット・モデルの作成およびリバースエンジニアリング	19
メタデータおよびデータをロードするためのインターフェースの作成	20
メタデータおよびデータをロードするためのパッケージの作成	22

練習用サンプル・ファイル

このドキュメントでは、Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planningに含まれているサンプル・ファイルの使用方法を説明します。サンプル・ファイルは、ユーザーがこのアダプタをよく理解し、アダプタを使用してメタデータやデータをOracleのHyperion Planning - System 9にロードする練習を行うために作成されたものです。

サンプル・ファイルはodiap_93110_samples.zipファイル内に含まれており、任意のフォルダに抽出できます。odiap_93110_samples.zipファイルには次のフォルダが含まれます。

- data。このフォルダには次のファイルが含まれています。
 - Accounts.csv
 - DataLoad.csv
 - Entities.csv
 - Segments.csv
- work_repository。このフォルダにはplanning_samples.zipが含まれています。

Planningサンプル・アプリケーションの前提条件

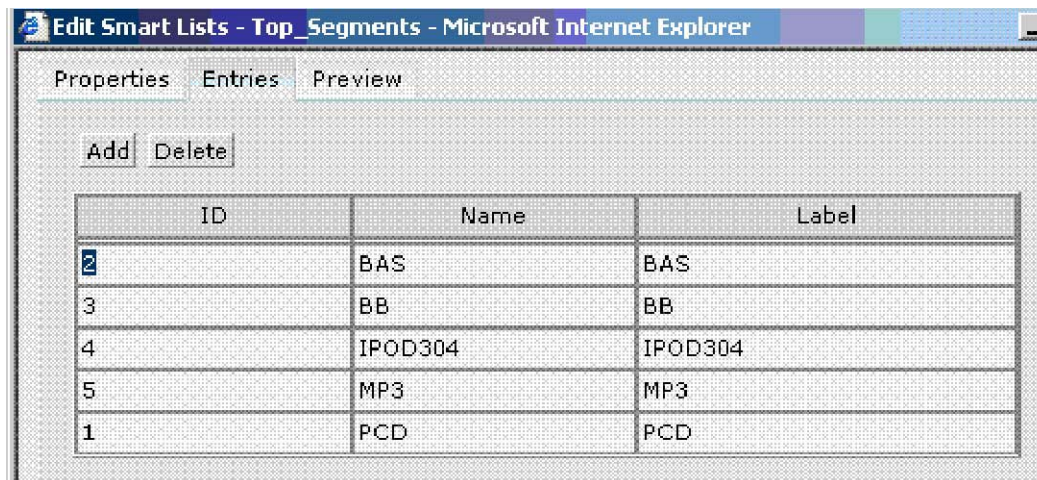
このリリースで提供されるサンプル・ファイルを使用するには、Planningサンプル・アプリケーションが次の前提条件を満たしている必要があります。

- Planning 9.3.1のサンプル・アプリケーションが、キューブ名Consolを使用してRefApp931としてインストールされている必要があります。

注意:

.csvデータファイルを更新して、キューブ名を環境に適した名前に変更できます。Planning参照アプリケーションを使用している場合は、変更は不要です。

- SegmentsディメンションにTop_Segmentsという名前のスマート・リストが存在し、メンバーBAS、IPOD304、BB、PCDおよびMP3が含まれている必要があります。



ID	Name	Label
2	BAS	BAS
3	BB	BB
4	IPOD304	IPOD304
5	MP3	MP3
1	PCD	PCD

注意:

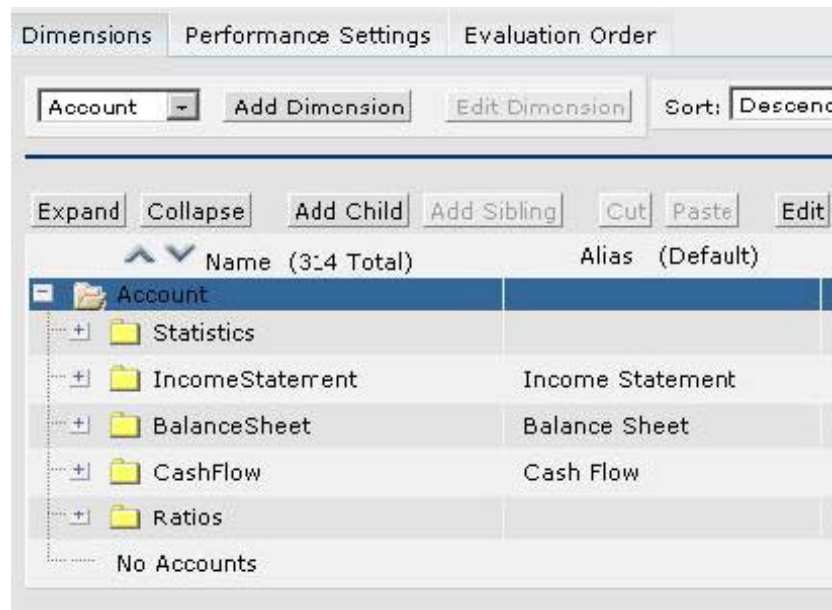
リリース9.3.1より前のPlanningインストールでは、サンプル・アプリケーションを作成し、上の図に示したエントリを使用してTop_Segmentsという名前のスマート・リストを作成できます。

- ディメンションおよびメンバーが、3ページの「[ディメンション・リファレンス](#)」で示すように設定されている必要があります。

Planning 9.3.1のサンプル参照アプリケーション、関連するPlanningメタデータおよびPlanningの設定の作成方法は、『Hyperion Planning - System 9 Administrator's Guide』を参照してください。

ディメンション・リファレンス

Account - デフォルト・メンバー



Currency - デフォルト・メンバー

Code (17 Total)	Symbol	Alias (Default)	Description
<input type="checkbox"/> USD	\$		United States of America
<input type="checkbox"/> BRL	R\$		Brazil real
<input type="checkbox"/> EUR	€		European Union Euro
<input type="checkbox"/> CAD	Can\$		Canada dollar
<input type="checkbox"/> MXP	Mex\$		Mexico peso
<input type="checkbox"/> ARS	\$		Argentina peso
<input type="checkbox"/> SFK	Sk		Sweden krona
<input type="checkbox"/> CHF	SwF		Switzerland franc
<input type="checkbox"/> GBP	£		United Kingdom pound
<input type="checkbox"/> AUD	A\$		Australia dollar
<input type="checkbox"/> CNY	Y		China yuan
<input type="checkbox"/> HKD	HK\$		Hong Kong dollar
<input type="checkbox"/> JPY	¥		Japan yen
<input type="checkbox"/> PHP	PHP		Philippines peso

Entityのデフォルト

Name (230 Total)	Alias (Default)
Entity	
TotalGeography	Total Geography
Function	

注意:

リリース9.3.1より前のPlanningアプリケーションのサンプルには、Entitiesディメンションをロードするためのマッピングが含まれています。このマッピングを実行してEntity階層を作成できます。Planning 9.3.1のサンプル・アプリケーションを使用する場合は、この手順は不要です。

Period - 四半期 - 月

Dimensions Performance Settings Evaluation Order

Period Add Dimension Edit Dimension

Expand Collapse Add Edit Delete Options Show Usage Base Period: 12 Months

Name (19 Total)	Alias (Default)	Start Period
Period		
BegBalance		
YearTotal		Q1
Q1		Jan
Jan		
Feb		
Mar		
+ Q2		Apr
+ Q3		Jul
+ Q4		Oct

Scenario - デフォルト・メンバー

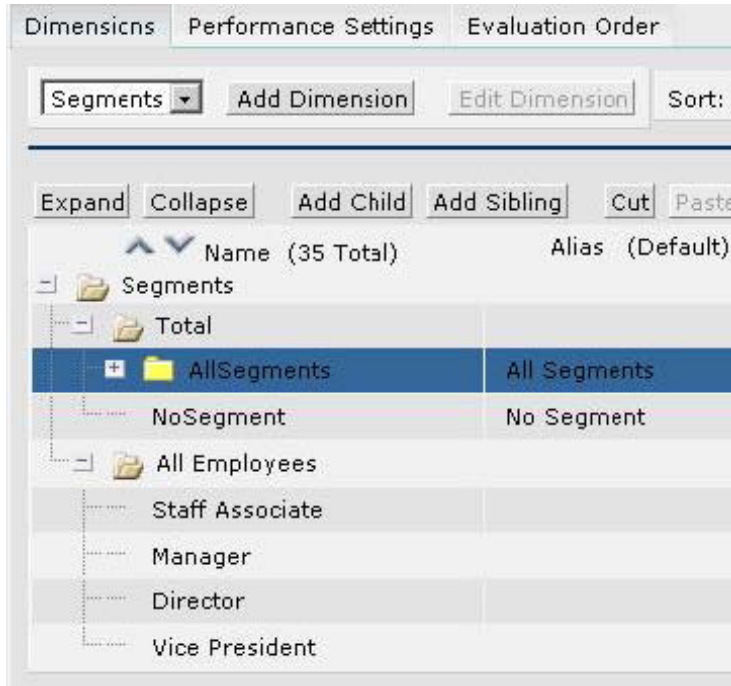
Dimensions Performance Settings Evaluation Order

Scenario Add Dimension Edit Dimension Sort:

Expand Collapse Add Child Add Sibling Cut Paste

Name (5 Total)	Alias (Default)	Description
Scenario		
Current		
Plan		
Forecast		
Actual		

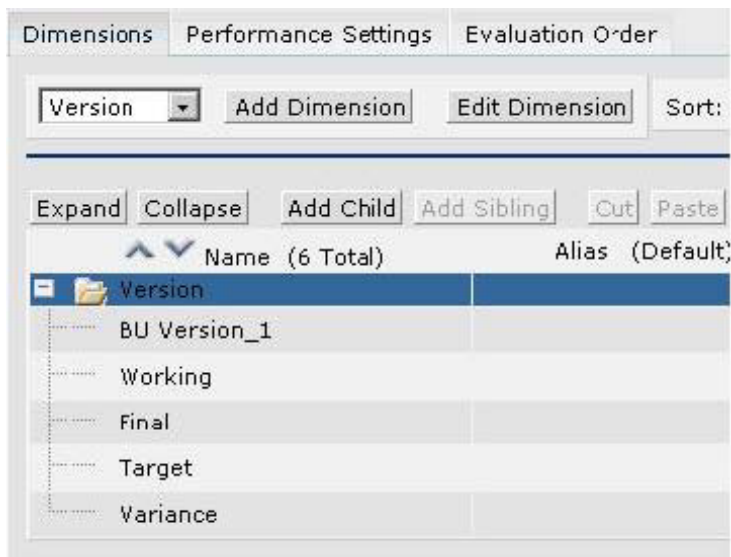
Segments - デフォルト・メンバー



注意:

Planning 9.3.1のサンプル・アプリケーションのSegment階層には、必要なメンバーがすべて含まれています。これより前のリリースのPlanningでこのアプリケーションを設定する場合は、サンプルに含まれているインタフェースloadSegmentsを使用して、Segmentsディメンションを作成できます。

Version - デフォルト・メンバー



Year

アプリケーションにFY07という年が含まれている必要があります。

Year (4 Total)		A
<input type="checkbox"/>	FY07	
<input type="checkbox"/>	FY08	
<input type="checkbox"/>	FY09	
<input type="checkbox"/>	FY10	

パフォーマンス設定

必要に応じて、パフォーマンス設定への変更を行えます。

Dimensions (9 Total)	Members	Density
<input type="radio"/> HSP_Rates		<input checked="" type="radio"/> Dense <input type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Period	19	<input checked="" type="radio"/> Dense <input type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Account	314	<input checked="" type="radio"/> Dense <input type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Entity	230	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Year	5	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Segments	35	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Currency	19	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Scenario	5	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse
<input type="radio"/> Version	6	<input type="radio"/> Dense <input checked="" type="radio"/> Sparse

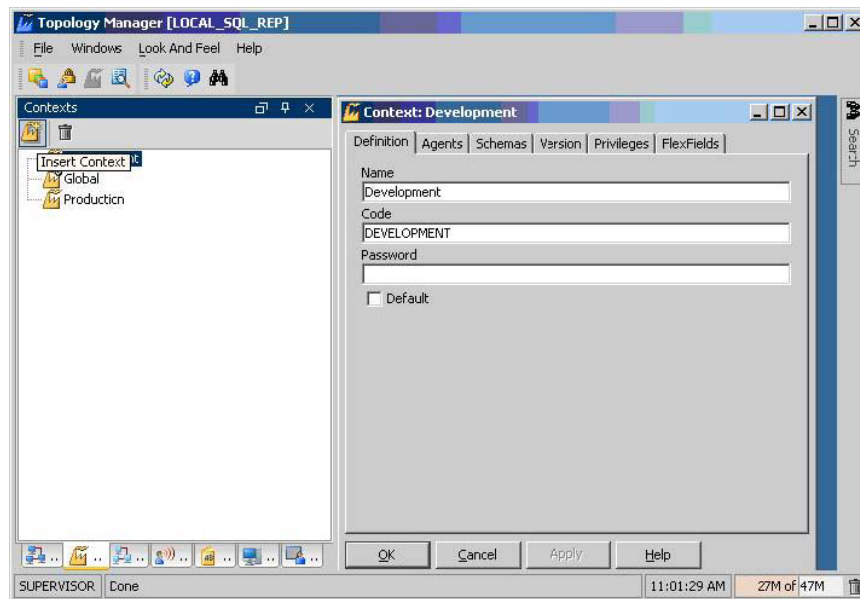
環境の設定

サンプル・ファイルからメタデータをロードする前に、次の各項の説明に従って、Oracle Data Integratorでサンプル環境を設定する必要があります。

- 8ページの「[コンテキストの作成](#)」
- 8ページの「[Hyperion Planningデータ・サーバーの設定](#)」
- 12ページの「[作業リポジトリの設定](#)」

コンテキストの作成

トポロジ・マネージャを起動して、Developmentというコンテキストを作成します。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。



Hyperion Planningデータ・サーバーの設定

Oracle Data Integratorを使用して、Hyperion Planningテクノロジー用のデータ・サーバーを作成し、このデータ・サーバーの物理スキーマおよび論理スキーマを作成します。

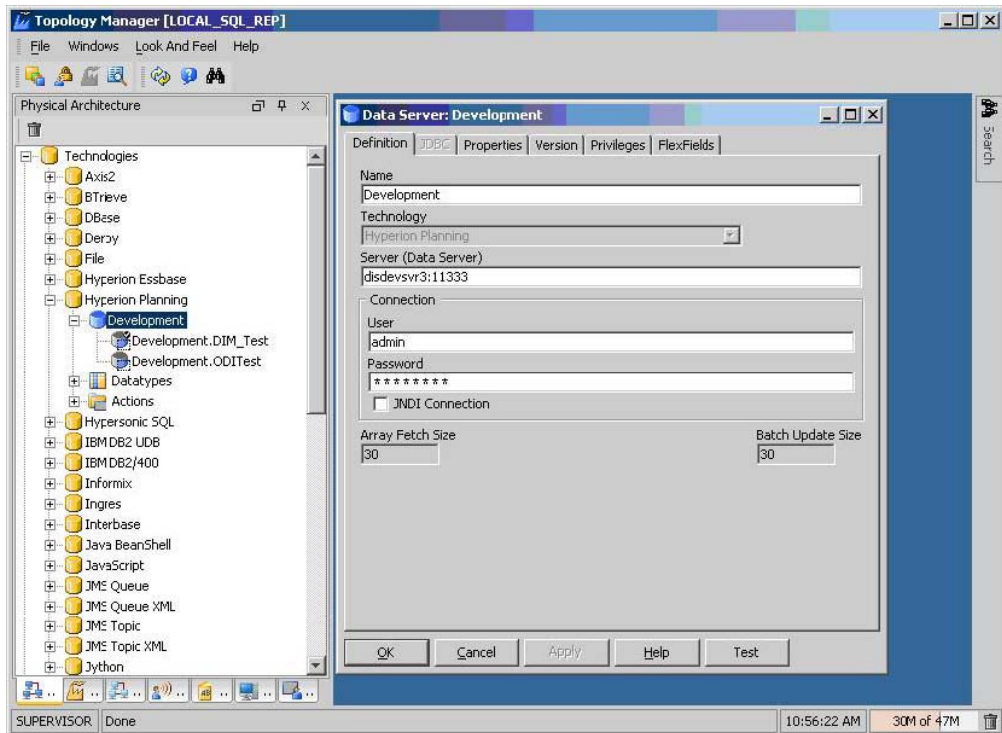
データ・サーバーの作成に関する詳細は、『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ▶ Hyperion Planning のデータ・サーバーを設定するには、次のようにします。
- 1 トポロジ・マネージャを使用して、Hyperion Planningテクノロジーの下にデータ・サーバーを作成します。

注意:

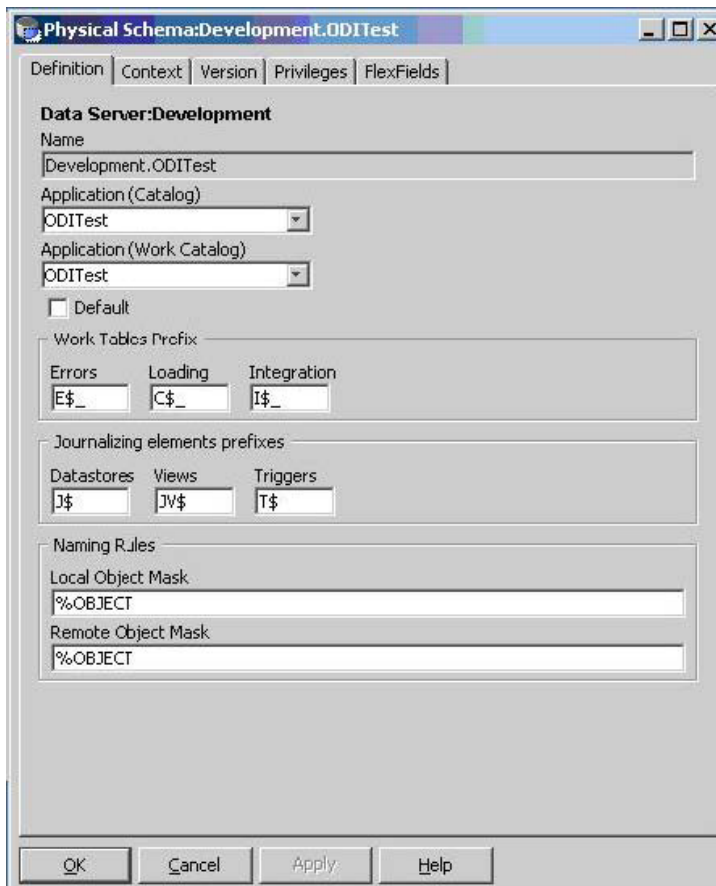
トポロジ・マネージャにHyperion Planningテクノロジーが表示されない場合は、Hyperion Planningテクノロジーをインポートする必要があります。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。

データ・サーバーには任意の名前を付けることができます。次の図は、Developmentという名前のデータ・サーバーを示しています。

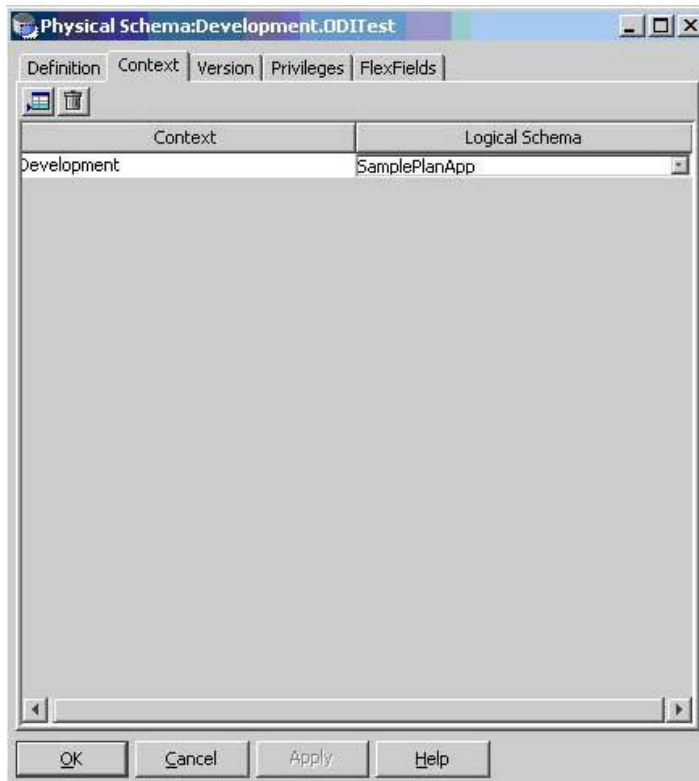


2 Planningアプリケーションを指定するための物理スキーマを作成します。

次の図では、物理スキーマはODITestというPlanningアプリケーションを指しています。



- 3 「コンテキスト」タブで次の手順を行います。
 - a. 「コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
 - b. 次の図のように、論理スキーマ名としてSamplePlanAppを入力します。



注意:

論理スキーマに異なる名前を付ける場合は、その名前を指定するように、モデルおよびインタフェースを更新してください。この更新を行わない場合、作業リポジトリのインポート後にパッケージおよびインタフェースを実行できなくなる可能性があります。

- c. 「OK」をクリックします。データ・サーバーの設定に関する詳細は、『Oracle Data Integratorユーザズ・ガイド』を参照してください。

File物理スキーマの設定

Oracle Data Integratorを使用して、Fileテクノロジーの物理スキーマを作成し、Fileデータ・サーバーの物理スキーマを作成します。

注意:

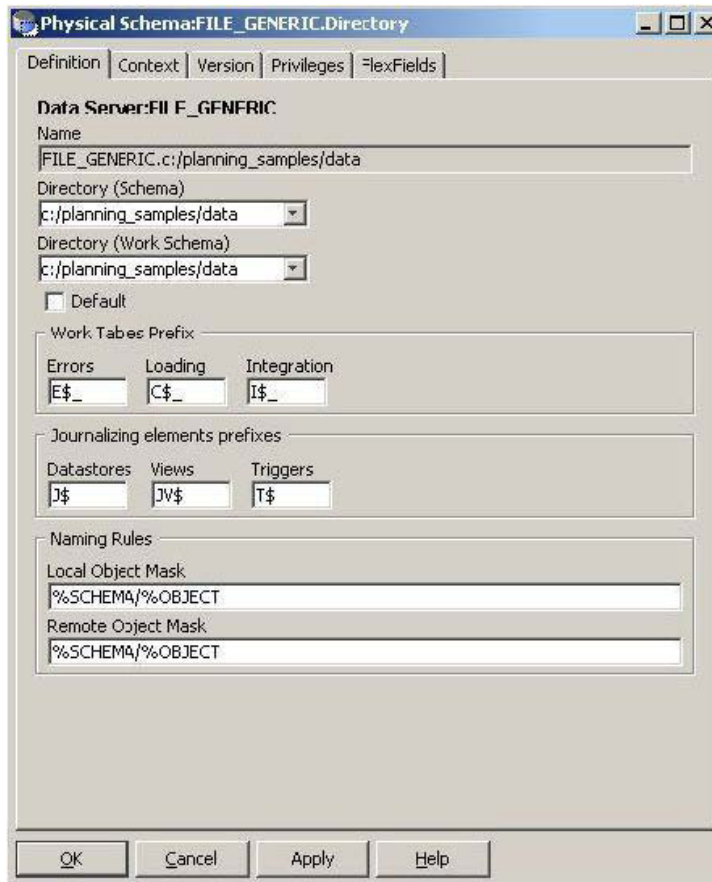
サンプルのソースがデリミタ付きフラット・ファイルであるため、この手順を行う必要があります。

- ▶ File の物理スキーマを設定するには、次のようにします。

- 1 トポロジ・マネージャを使用して、Fileテクノロジーの下にFILE_GENERICデータ・サーバー用の物理ス

キーマを作成します。

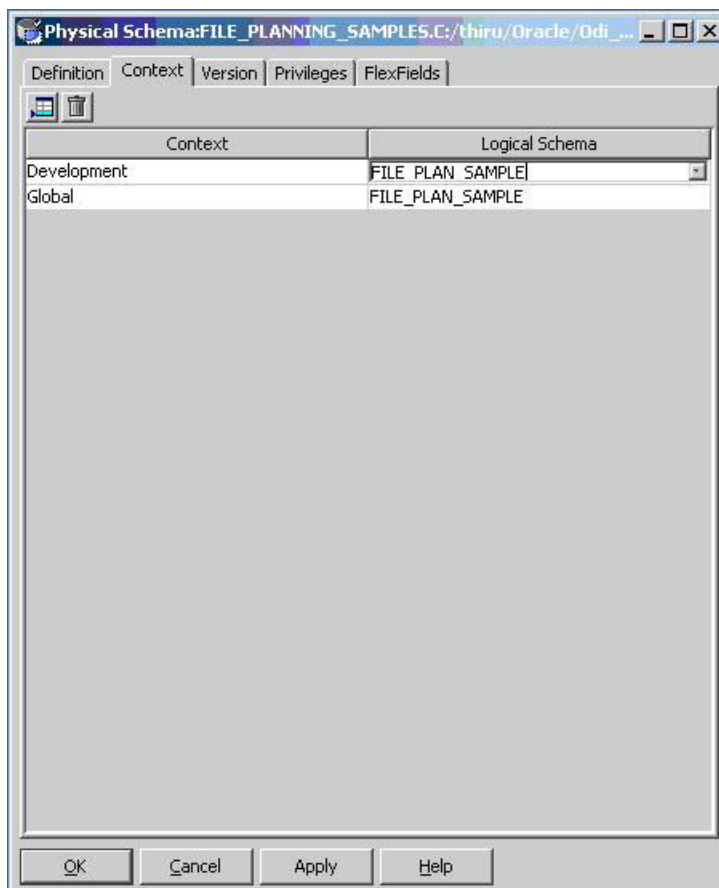
- 2 次の図のように、ディレクトリ(スキーマ)で(odiap_93110_samples.zipから抽出された)dataフォルダを選択します。



このdataフォルダにはサンプル・ソース・ファイルが含まれます。

- 3 「コンテキスト」タブで次の手順を行います。
 - a. 「コンテキスト」をDevelopmentに設定します。

b. 次の図のように、「論理スキーマ」にFILE_PLAN_SAMPLEと入力します。



c. 「OK」をクリックします。

作業リポジトリの設定

Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planningに含まれている `odiap_93110_samples.zip`には、`planning_samples.zip`という作業リポジトリ・エクスポート・ファイルが含まれています (`odiap_93110_samples.zip`の詳細は、2ページの「[練習用サンプル・ファイル](#)」を参照してください)。
`planning_samples.zip`ファイルには、Oracle Data Integratorのモデル、インタフェース、パッケージの他に、サンプルのPlanningアプリケーションにメタデータやデータをロードするために必要なKMが含まれています。Oracle Data Integratorを使用して、Adapter for Hyperion Planningのサンプルで使用する作業リポジトリを作成し、`planning_samples.zip`を作業リポジトリにインポートします。

- ▶ 作業リポジトリを設定するには、次のようにします。
- 1 トポロジ・マネージャを使用して、マスター・リポジトリに接続し、ODI_PLANNING_SAMPLEという名前の作業リポジトリを作成します。手順は『Oracle Data Integratorユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- 2 デザイナを起動して、ODI_PLANNING_SAMPLE作業リポジトリに接続します。

3 「ファイル」→「インポート」→「作業リポジトリ」を選択します。

4 インポート・モードを選択します。

推奨されるモードはINSERT_UPDATEです。

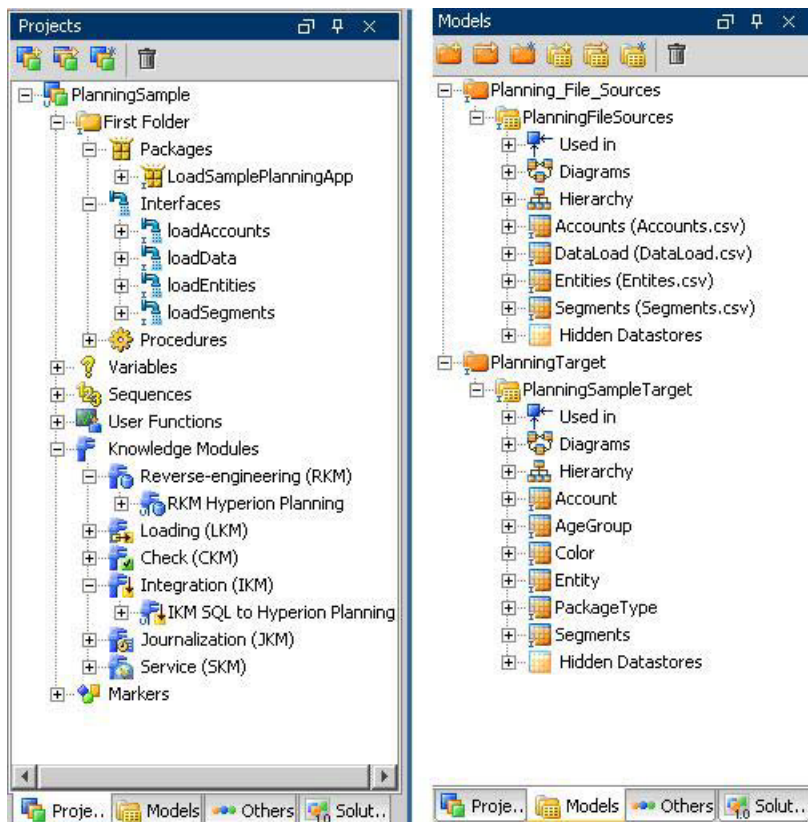
5 planning_samples.zipが含まれているフォルダにナビゲートして、「OK」をクリックします。

次のインターフェースが作業リポジトリに追加されます。

- loadAccounts
- loadEntities
- loadSegments
- loadData

このインポートにより、LoadMetadataおよびLoadDataの2つのパッケージが追加されます。これらのパッケージは、メタデータとデータのロード用にこれらのインターフェースをつなぎ合せます。インターフェースをダブルクリックするとインターフェースが開き、「フロー」タブに)列マッピングおよびIKMオプションが表示されます。

次の図は、インポートに成功した場合の「プロジェクト」ツリーおよび「モデル」ツリーの外観を示しています。



サンプル・アプリケーションのロード

サンプルのPlanningアプリケーションをロードするには、次の順序で作業を行います。

- Account、EntityおよびSegmentsの各ディメンションへのメタデータのロード
14ページの「[サンプル・アプリケーションへのメタデータのロード](#)」を参照してください。
- アプリケーションのキューブのリフレッシュ
16ページの「[RefAp931に対するメタデータのリフレッシュ](#)」を参照してください。
- アプリケーションへのデータのロード
17ページの「[データのロード](#)」を参照してください。

サンプル・アプリケーションへのメタデータのロード

次の各項の手順に従って、Planningサンプル・アプリケーションにメタデータをロードします。

- 14ページの「[Accountディメンションのメタデータのロード](#)」
- 15ページの「[Entityディメンションのメタデータのロード](#)」
- 16ページの「[Segmentsディメンションのメタデータのロード](#)」

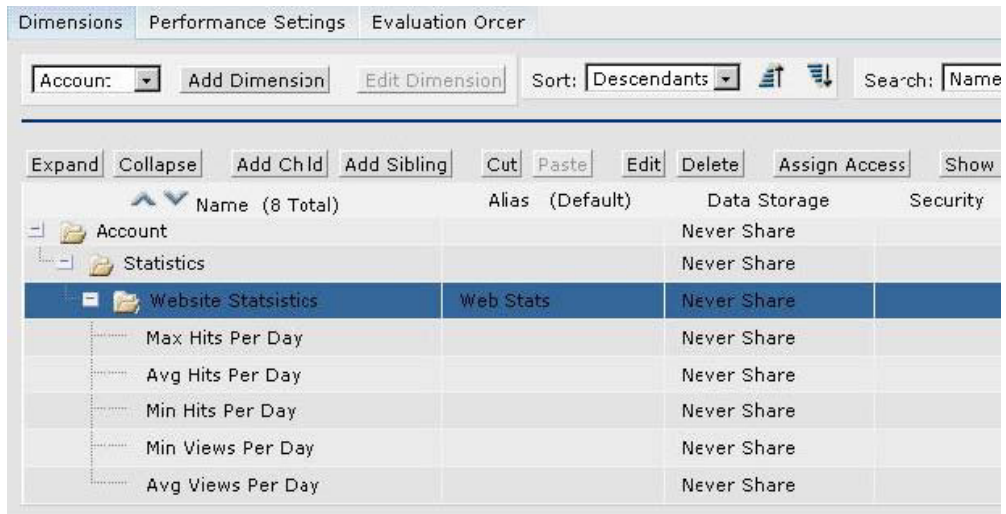
Accountディメンションのメタデータのロード

サンプル・パッケージには、Accountディメンションにメタデータをロードする、loadAccountsというインタフェースが含まれています。

注意:

このインタフェースまたは類似したその他のインタフェースの作成手順は、20ページの「[メタデータおよびデータをロードするためのインタフェースの作成](#)」を参照してください。

- ▶ Accountディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。
 - 1 loadAccountsインタフェースを実行します。
 - 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
 - 3 Accountディメンションを検証します。
 - a. Planning Webにログオンします。
 - b. 「管理」 → 「ディメンション」 を選択します。



Entityディメンションのメタデータのロード

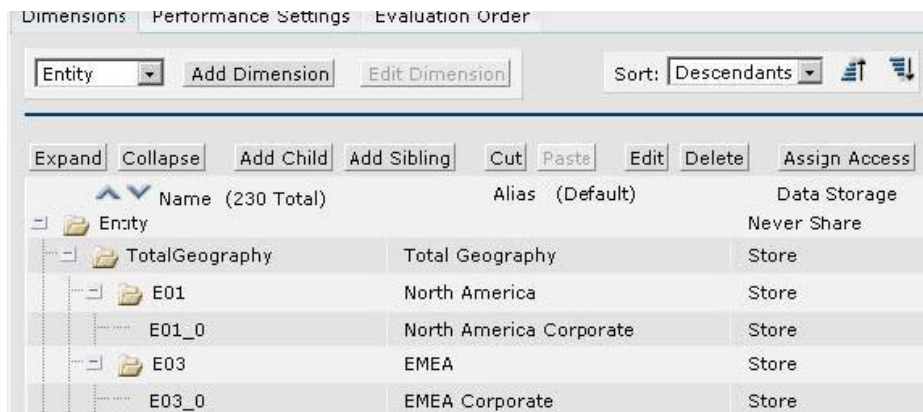
サンプル・パッケージには、Entityディメンションにメタデータをロードする、loadEntitiesというインタフェースが含まれています。

注意:

リリース9.3.1に同梱されているPlanningの参照サンプル・アプリケーションには、必要な階層が設定されています。このアプリケーションを使用する場合は、この手順は不要です。

- ▶ Entityディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。
 - 1 loadEntitiesインタフェースを実行します。
 - 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
 - 3 Entityディメンションを検証します。
 - a. Planning Webにログオンします。
 - b. 「管理」 → 「ディメンション」 を選択します。

次の図は、Entityディメンションの外観を示しています。



Segmentsディメンションのメタデータのロード

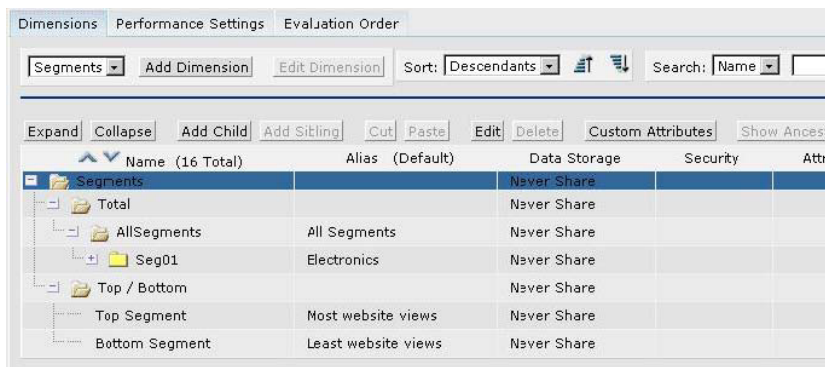
サンプル・パッケージには、Segmentsディメンションにメタデータをロードする、loadSegmentsというインタフェースが含まれています。

▶ Segmentsディメンションにメタデータをロードするには、次のようにします。

- 1 loadSegmentsインタフェースを実行します。
- 2 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 3 Segmentsディメンションを検証します。
 - a. Planning Webにログオンします。

b. 「管理」 → 「ディメンション」 を選択します。

次の図は、Segmentsディメンションの外観を示しています。スマート・リストのメンバーであるTop Segmentが表示されています。



Name (16 Total)	Alias (Default)	Data Storage	Security	Attr
Segments		Naver Share		
Total		Naver Share		
AllSegments	All Segments	Naver Share		
Seg01	Electronics	Naver Share		
Top / Bottom		Naver Share		
Top Segment	Most website views	Naver Share		
Bottom Segment	Least website views	Naver Share		

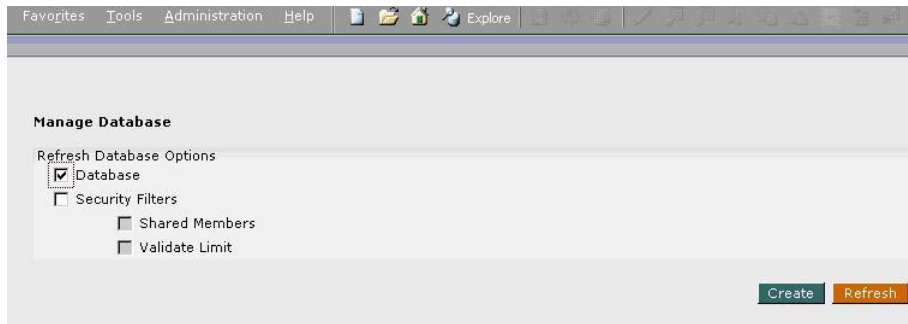
RefAp931に対するメタデータのリフレッシュ

注意:

Planning 9.3.1のサーバーを使用している場合は、この手順は不要です。loadSegmentsインタフェースの実行後にリフレッシュが実行されるように、loadSegmentsインタフェースのREFRESH_DATABASEオプションは「はい」に設定されています。

▶ RefAp931 のメタデータをリフレッシュするには、次のようにします。

- 1 Planning Webにログオンします。
- 2 「管理」 → 「データベース管理」 を選択します。



OracleのHyperion Essbase - System 9アプリケーション・データベースにメタデータが追加されます。

データのロード

Oracle Data Integrator Planning KMを使用して、Planningアプリケーションにデータをロードします。

注意:

Oracle Data Integratorを使用してPlanningアプリケーションにデータをロードする前に、Planning Webでデータ・ロード・ドライバ・ディメンションを設定しておく必要があります。また、必要に応じて、`dataload.csv`ファイルを変更してキューブ名 (Consol) を環境に適した名前に変更してください。

▶ Planning アプリケーションにデータをロードするには、次のようにします。

1 次の手順で、ロードするデータのパラメータを指定します。

a. 「管理」 → 「データ・ロード管理」を選択します。

b. 「使用可能なデータ・ロード・ディメンション」でディメンションを選択し、「実行」をクリックします。

このディメンションは、Hyperionアプリケーション・リンクを使用してメタデータをロードするディメンションであり、Adapter for Hyperion Planningのメソッドに対応しています。

c. 「使用可能なドライバ・ディメンション」で、OracleのHyperion Essbase - System 9データベースでデータをロードするディメンションを選択します。たとえば、Accountディメンションを選択します。

d. データとともにロードするドライバ・ディメンションのメンバーを選択します。たとえば、Segmentsディメンションのメンバー (BAS、HTAS、IPOD304、BB、PCD、MP3、Top SegmentおよびBottom Segment) を選択します。

選択したメンバーは、Adapter for Hyperion Planning内でポート (フィールド) になります。

e. 「保存」をクリックします。

- 2 loadDataインタフェースを実行します。
- 3 オペレータのログをチェックして、インタフェースが正常に実行されたかどうか確認します。
- 4 Planning Webフォームを作成してデータを取得するか、OracleのEssbase Administration Servicesをチェックしてブロックが適切なキューブに作成されていることを確認し、データのロードを検証します。

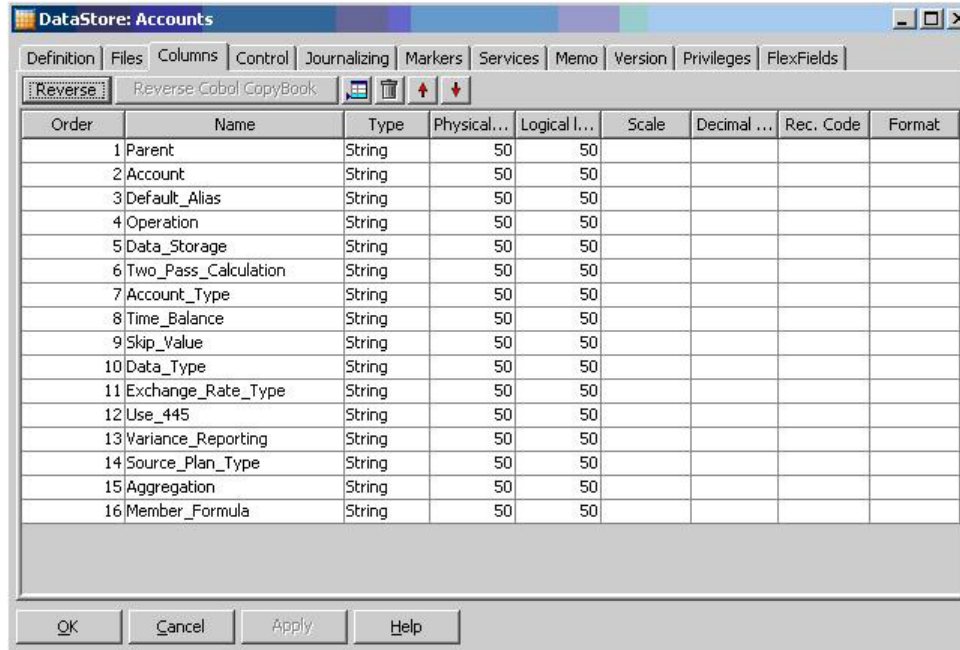
サンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリング

Oracle Data Integratorデザイナを使用して、Adapter for Hyperion Planningのサンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行います。

- ▶ サンプル・ソース・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行うには、次のようにします。
- 1 「モデル」ビューで、Planning_File_Sourcesという新規モデル・フォルダを挿入します。
 - 2 このPlanning_File_Sourcesモデル・フォルダを右クリックして、「モデルの挿入」を選択します。
 - 3 このモデルにPlanningFileSourcesという名前を付け、「テクノロジー」をFile、「論理スキーマ」をFILE_PLAN_SAMPLEにそれぞれ設定します。
 - 4 「リバース」タブで「コンテキスト」をDevelopmentに設定し、「OK」をクリックします。
 - 5 PlanningFileSourcesを右クリックして「データストアの挿入」を選択します。
 - 6 定義対象のファイル・ソースに応じて、「名前」をAccounts、Entities、SegmentsまたはDataLoadに設定します。
 - 7 「リソース名」の横の「参照」ボタンをクリックして、定義するソースのファイル(Accounts、Entities、DataLoadまたはSegments)を選択します。
 - 8 「ファイル」タブを選択します。
 - 9 「ファイル形式」を「区切り」、「ヘッダー(行数)」を1、「フィールド・セパレータ」を「,」(カンマ)にそれぞれ設定します。

10 「列」タブをクリックして「リバース」をクリックします。

次の図は、このページの外観を示しています。



11 残りの各ファイル・ソースに対して、手順5~10を繰り返します。

サンプル・ターゲット・モデルの作成およびリバースエンジニアリング

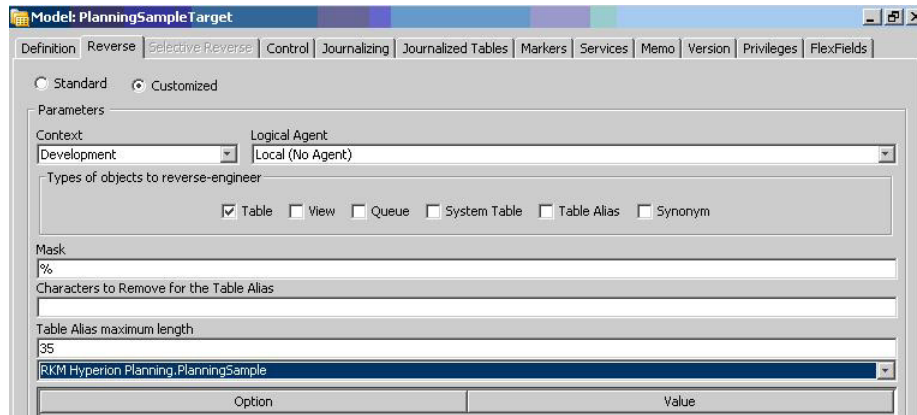
Oracle Data Integratorデザイナを使用して、Adapter for Hyperion Planningのターゲット・モデルの作成およびリバースエンジニアリングを行います。

注意:

この手順でリバースエンジニアリング処理を完了する前に、Data LoadディメンションおよびDriverディメンションとそのメンバーが正しく設定されるように、Planningでデータ・ロード管理が設定されていることを確認してください。「ディメンションの参照」を参照してください。これを行わない場合、データ・ロードに必要なポートがAccountデータストアに含まれません。

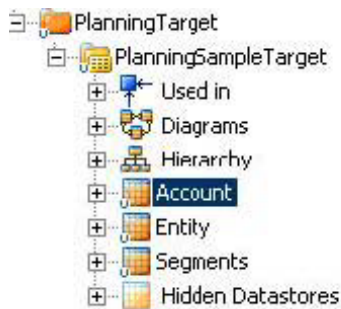
- ▶ サンプル・ターゲット・モデルのリバースエンジニアリングを行うには、次のようにします。
 - 1 「モデル」ビューで、PlanningTargetという新規モデル・フォルダを挿入します。
 - 2 このPlanningTargetモデル・フォルダを右クリックして「モデルの挿入」を選択します。
 - 3 モデルにPlanningSampleTargetという名前を付け、「テクノロジー」をHyperion Planning、「論理スキーマ」をSamplePlanAppにそれぞれ設定します。

- 4 「リバース」タブをクリックして(ページ最上部の)「カスタマイズ済」を選択します。
- 5 次の図のように、「コンテキスト」をDevelopmentに設定し、RKM Hyperion Planning.PlanningSampleを選択します。



- 6 「リバース」をクリックし、変更を検証するために「はい」をクリックして、最後に「OK」をクリックします。

次の図は、リバースエンジニアリングに成功した場合のPlanningSampleTargetモデルの表示を示しています。



PlanningSampleTargetのモデルが表示されない場合は、オペレータのログをチェックしてリバース処理が失敗した原因を突き止めます。

メタデータおよびデータをロードするためのインタフェースの作成

サンプルのPlanningアプリケーションにAccountディメンションをロードするためのインタフェースを作成できます。このインタフェースをモデルとして使用すると、Entity、SegmentsおよびDataLoadの各ディメンションをロードするためのインタフェース、および対応するソースとターゲットを作成できます。

これらのインタフェースをつなぎ合わせて1つのパッケージにして、単一の処理で実行できるようにすることも可能です。22ページの「[メタデータおよびデータをロードするためのパッケージの作成](#)」を参照してください。

- ▶ アカウント・ロード用のインタフェースを作成するには、次のようにします。
 - 1 デザイナを起動して、PlanningSampleプロジェクトの下の「インタフェース」ノードを開きます。

- 2 右クリックして「インタフェースの挿入」を選択します。
- 3 インタフェースにloadAccountsという名前を付け、「コンテキスト」をDevelopmentに設定します。
- 4 「ターゲットと異なるステージング領域」を選択して、環境に適したステージング領域を選択します。

注意:

トポロジ内でステージング領域として使用可能なデータ・サーバーが定義されていない場合は、Sunopsisメモリー・エンジンをステージング領域として使用してください。

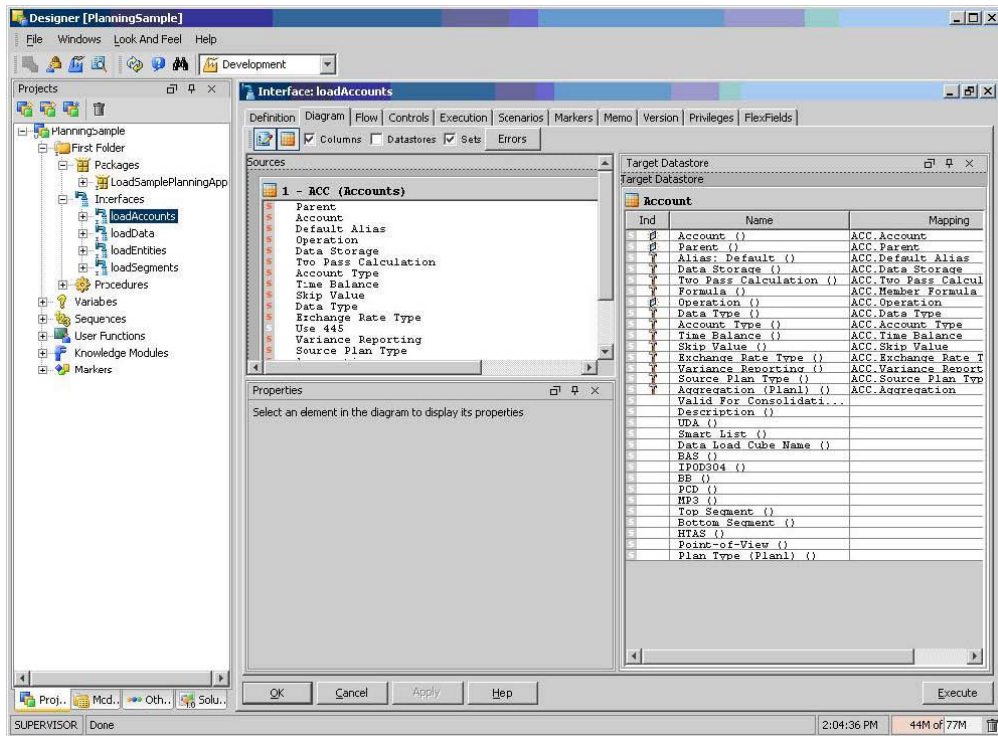
- 5 「ダイアグラム」タブをクリックします。
- 6 「モデル」ビューで、PlanningTargetまたはPlanningSampleTargetモデルから「ターゲット・データストア」ペインへ、Accountデータストアをドラッグします。
- 7 Planning_File_SourcesまたはPlanningFileSourceモデルから「ソース」領域へ、Accountsソースをドラッグします。

自動マッピングを使用するかどうかをたずねるプロンプトが表示されます。

- 8 「はい」をクリックして自動マッピングを選択します。
- 9 自動でマップされなかった列を手動でマップします。
- 10 「フロー」タブをクリックして「SS_0」を選択し、LKMがLKM File to SQLに設定されていることを確認します。
- 11 「ターゲット」をクリックして、IKMがIKM SQL to Hyperion Planningに設定されていることを確認します。
- 12 IKMオプションを設定します。

13 「適用」をクリックします。

作業終了時のページの外観は、次の図のようになります。



14 次のいずれかの方法でデータのロードを検証します。

- OracleのHyperion Planning - System 9のデータ・フォームを作成してデータを取得します。
- OracleのEssbase Administration Servicesをチェックして、ブロックが適切なキューブに作成されていることを確認します。

メタデータおよびデータをロードするためのパッケージの作成

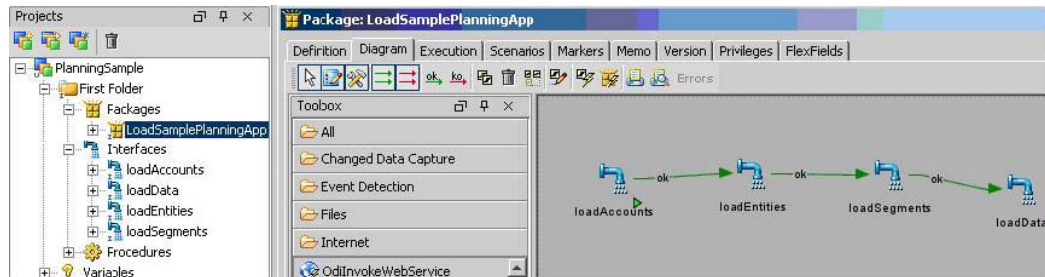
インタフェースをつなぎ合わせて1つのパッケージにし、単一の処理で実行できるようにすることが可能です。

- ▶ メタデータおよびデータをロードするためのパッケージを作成するには、次のようにします。

- 1 デザイナを起動します。
- 2 「パッケージ」を右クリックして「パッケージの挿入」を選択します。
- 3 パッケージにLoadSamplePlanningAppという名前(もしくは任意の名前)を付けます。
- 4 「ダイアグラム」タブをクリックします。

- 5 loadAccounts、loadEntities、loadSegmentsおよびloadDataの各インタフェースをダイアグラム領域にドラッグします。
- 6 「ok→」という緑の矢印を使用して、インタフェースを順番につなぎます。
- 7 「適用」をクリックします。

作業終了時のページの外観は、次の図のようになります。



Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning スタート・ガイド, リリース9.3.1.1

部品番号: E06144-01

2008年5月

原本名: Oracle Data Integrator Adapter for Hyperion Planning Getting Started, Release 9.3.1.1

原本著者: Cheryl Morrison

Copyright © 2007, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとし、著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるとしてプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありません。

このプログラムは、第三者のWebサイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。